

目的・目標	● 両校生徒の交流及び共同学習を発展的に進め、柔軟な教育課程の設定や指導体制の在り方等の検討をとおして、障がいのある生徒と障がいのない生徒が共に学ぶ新たな学びの場の実現を目指した実証的な研究を行う
-------	--

学校運営連携校	熊本県立松橋西支援学校高等部上益城分教室 (対象:知的障害) 熊本県立甲佐高等学校	一体型	カリキュラム・マネージャー	A: 元高等学校校長、元特別支援学校校長 B: 元特別支援学校校長
---------	---	-----	---------------	--------------------------------------

取組概要

<p>交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方</p>	<p>現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方</p>
<p>新たな学びの機会を創出し、交流及び共同学習を更に発展させると共に、障がいのある生徒と障がいのない生徒が自立と社会参加を目指して豊かに学び合う新たな学びの場を実現する。</p>	<p>教育課程や学習内容の調整、授業実施上の配慮、チームティーチングや教員配置といった指導体制、両校生徒の教育的ニーズに応えるための教育相談等を充実させるための校内支援体制等を構築する。</p>



<p>①交流及び共同学習の機会を広げ、「共に学ぶ」の質を高める</p>	<p>②両校のリソースを提供し合い、魅力ある授業を互いに受けられる仕組みを創る</p>	<p>③一人一人の教育的ニーズに応え学びの質を高めるために一層の協力体制を築く</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の目標や内容を意識し、共同学習が実施可能な教科を検討する。</li> <li>教材教具やICT機器を活用し、一人一人の学びの充実に必要な合理的配慮を両校で展開していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を互いに継続的に受けられることができるよう、両校の教育課程や年間指導計画を作り上げる。</li> <li>指導体制やサポートについて考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニット会議等を行いながら、生徒一人一人を大切にしながら取組を進める。</li> <li>障がいの有無や特別な支援の要否に関わらず、共に学べる環境づくりを進める。</li> </ul>



取組の経過と成果は、県内の高校敷地内に高等部を設置している特別支援学校と当該高校で共有しながら各学校の実践に反映させ、県全体で高等学校段階のインクルーシブ教育システムの構築に繋げる。

## ①交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討

<p><b>共同学習1</b></p> <p>「音楽」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に行われる甲佐高校の文化祭「青垣祭」でのステージ発表を共通のゴールに設定し、交流及び共同学習の共通の目標だけでなく、共同学習の側面を充実させるために、各校の教科の目標を設定した。</li> <li>・授業は全13回行い、生徒の実態に応じて題材計画を作成し、分教室のみの学習と共同学習の活動に分けて取り組んだ。</li> <li>・歌唱及び身体表現と打楽器のグループ活動に加え、生徒の立ち位置を工夫するなどして、一体感を作り上げていった。</li> <li>・文化祭当日のステージ発表では、全員が自信を持って学習の成果を発表することができた。</li> </ul>
<p><b>共同学習2</b></p> <p>「国語」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語に関しても、交流及び共同学習の共通の目標だけでなく、共同学習の側面を充実させるために、各校の教科の目標を設定した。</li> <li>・上益城分教室2年生の希望者2名と、甲佐高校2年生普通科の1グループが取り組んだ。甲佐高校の題材(計3時間)のうち、1時間を共同学習とした。</li> <li>・上益城分教室生徒用に宛名教材を別途用意し、座席位置の配慮や実物投影機による「見てわかる視覚的な指導」を行った。上益城分教室生徒にとって、より専門性の高い指導を受ける貴重な機会となった。</li> </ul>



## ②現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

<p><b>体制構築1</b></p> <p>取組開始時のアンケート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に生徒・教師に交流及び共同学習に関するアンケートを実施した。</li> <li>・生徒・教師ともに交流による「成長」や「楽しさ」を実感できるのではないかな等の意見がでた。</li> <li>・教師の業務負担や、特別な配慮が必要な生徒への対応力向上といった課題も上げられた。</li> </ul>				
<p><b>体制構築2</b></p> <p>合同職員研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の連携を密にしていくために夏季休業中に合同職員研修を行い、その中のグループ協議では、より具体的な連携策を話し合った。生徒指導や進路指導における情報共有の有効性が確認された。</li> <li>・第2回合同職員研修会では、連携協議会外部専門家である九州ルーテル学院大学河田教授から講話及び指導助言をいただいた。</li> </ul>				
<p><b>体制構築3</b></p> <p>授業参観</p>	<p>・お互いの授業参観を通しての気づきや学びについての意見として、施設面や教材の活用等を取り入れることで、深い学びにつながる視覚支援やICT活用、生徒への声かけの工夫等、多くの具体的な指導のノウハウを学ぶ機会となった等の意見が出された。</p>				
<p><b>体制構築4</b></p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="31 1213 238 1306"> <p>授業開発ユニット</p> </td> <td data-bbox="238 1213 1908 1306"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を含め、これまでも行ってきたことは、担当者間での引継ぎを行いながら、授業を滞りなく実施するとともに、共同学習では、目標や学習内容を事前に共有するようしにした。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="31 1306 238 1389"> <p>支援検討ユニット</p> </td> <td data-bbox="238 1306 1908 1389"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回を基本にメンバーで集まり、特に支援が必要な生徒について情報交換を行った。</li> <li>・松橋西支援学校の特別支援教育コーディネーターが、甲佐高校の巡回相談を行う際の手続きを簡素化し、協力体制の強化を図った。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>授業開発ユニット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を含め、これまでも行ってきたことは、担当者間での引継ぎを行いながら、授業を滞りなく実施するとともに、共同学習では、目標や学習内容を事前に共有するようしにした。</li> </ul>	<p>支援検討ユニット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回を基本にメンバーで集まり、特に支援が必要な生徒について情報交換を行った。</li> <li>・松橋西支援学校の特別支援教育コーディネーターが、甲佐高校の巡回相談を行う際の手続きを簡素化し、協力体制の強化を図った。</li> </ul>
<p>授業開発ユニット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を含め、これまでも行ってきたことは、担当者間での引継ぎを行いながら、授業を滞りなく実施するとともに、共同学習では、目標や学習内容を事前に共有するようしにした。</li> </ul>				
<p>支援検討ユニット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回を基本にメンバーで集まり、特に支援が必要な生徒について情報交換を行った。</li> <li>・松橋西支援学校の特別支援教育コーディネーターが、甲佐高校の巡回相談を行う際の手続きを簡素化し、協力体制の強化を図った。</li> </ul>				

## 本事業の成果

## 生徒・教職員の意識等の変容

- ・共同学習後の生徒の感想では「一緒に活動して楽しめた。」「継続的に共同学習の機会があってもよい。」等、友達を意識し、もっと一緒に活動したいという意欲的な意見が多くみられるようになった。
- ・「音楽」「国語」の共同学習にとどまらず、行事やレクリエーション等、いろいろな活動ができるのではないかと、前向きな意見がみられるようになった。
- ・互いの授業参観を通して、合理的配慮や生徒への支援の仕方等ユニバーサルな授業づくりの意識の向上へとつながり、今後の活動充実に向けて取り組めること、取り組みたいことなど建設的な意見が多くみられるようになってきた。

## 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

- ・共同学習として「音楽」と「国語」を実施し、両校が教科の目標をもって授業づくりに臨むことができた。
- ・交流及び共同学習の充実について、今後の可能性と課題が明らかになった。
- ・公開授業を行い、高校敷地内に高等部を設置している特別支援学校と当該学校へ発信したことで、今後の交流および共同学習の取組充実への意識向上につながってきた。

## 現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

- ・職員研修やグループ検討、生徒アンケートから交流及び共同学習について具体的な取組案が多数出てきたので、今後の取組に生かしていくことができた。
- ・アンケートや授業参観等を実施したことで、より、「生徒の成長」や「インクルーシブ教育の実践」といった教育的価値を教師自身が前向きに捉えることができるようになった。

## 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

- ・生徒の実態に合わせた共同学習が可能な教科とその内容の把握に時間がかかり、調整が困難であったため、今後は交流及び共同学習に係る年間計画や担当者等を明確化し、両校で共有する。
- ・共同学習「理科」を実施し、年間計画作成及び授業計画・評価を共有するとともに、校内での授業研究会を実施する。
- ・日常的に自然な交流ができる機会や場を拡充する。

## 現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

- ・授業づくりに関する職員のニーズの把握が不足し、必要な専門性の相互提供が十分にできなかったため、職員のニーズの把握とその対応を検討・共有し、その内容を合同研修会で取り上げながら充実させる。
- ・授業を展開する中で職員の役割分担や指導上の留意点等について、より詳細な検討と共有ができるよう、組織的で円滑な連携体制を築く。
- ・公開授業研究発表会を実施し、事業実践を積極的に発信し、各校への広がりや参考事例として活用できるようにしていく。

## 課題

## 今後の展望